

Howard Hughes Dec 24, 1905  
 Time: 1:15PM Zone: 6:00 DST: 0  
 houston,texas  
 Longitude: 95W22 Latitude: 29N45 CurPer: Sa/Ke/Sa  
 Lahiri Ayanamsa: 22:33 365.25 Day Year

Howard Hughes, ハワードヒューズ

As 00:20	Ar	Vimshottari Dashas
Su 09:48	Sg	Me Dec-24-1905
Mo 21:10	Sc	Ke Mar-30-1917
Ma 05:20	Aq	Ve Mar-30-1924
MeR 22:33	Sc	Su Mar-30-1944
JuR 05:13	Ta	Mo Mar-31-1950
Ve 27:27	Sc	Ma Mar-30-1960
Sa 06:07	Aq	Ra Mar-31-1967
Ra 29:31	Cn	Ju Mar-30-1985
Ke 29:31	Cp	Sa Mar-30-2001

	As 0:20	JuR 5:13	
Ma 5:20 Sa 6:07			Ra 29:31
Ke 29:31			
Su 9:48	Mo 21:10 MeR 22:33 Ve 27:27		

Ve Ra	As		Su
JuR			
Mo MaR			
	Ma Sa		Ke

強迫性障害

Ra 29:31

ハワード・ヒューズの生涯について知るには映画『アビエイター』(2004 年度 マーティン・スコセッシ 監督 レオナルドディカプリオ主演)を見ればよく分かる。

映画の冒頭の場面で、少年のハワード・ヒューズが母親に体を洗われているところから物語は始まるのであるが、母親は息子が赤痢とかチフスとか細菌に感染して死ぬことを恐れており、体を洗って感染が予防しないように息子を隔離したのである。神経症は幼少時の両親との関係、しばしば幼少期の母子関係を原因として生じるのであるが、この場合も典型的な母親の息子への所有欲、執着心(息子が菌に感染して死ぬことへの恐れ)などが原因ではないかと思われる。この幼少期に彼の頭の中に植えつけられた「QUARANTINE」(感染予防のための隔離)という言葉は事あるごとに母親が繰り返して口に出して、ヒューズの頭に刻みつけられたのであろうと思われ、この映画のキーワードにもなっている。

このように既に冒頭の場面で母親が彼の神経症の原因であることが示されているのだが、実際にチャートを見てもそれが確認できる。

出生時間が分からないため、12:00 でチャートを作成すると、月は蠍座で減衰し、月から4室に自室の土星と火星が在住している。月から見るとラグナロードの火星が4室に在住して、4室の支配星と接合して、激しく傷つけられている。従って、彼は母親と特別に深い関係があり、その関係によって傷つけられたことを示している。また4室は家であり、建物であるが火星が土星が自室で強い部屋に入ることによって、自分のエネルギーが強く抑制されて、制限されている印象である。これはまさに「QUARANTINE」(感染予防のための隔離)ということを示されるような家での拘束を表しているように思われる。

映画の随所でハワードヒューズがこの幼少時の体験に起因する潔癖症を示す場面が登場するのだが、彼の症状は悪化していき、ついにはホテルの最上階に設けられた完全無菌の映画の試写室に閉じこもって出てこなくなるのである。手を洗い出すととまらなくなるため、全裸で生活し、彼が無菌地帯と汚染地帯として区分けした場所をテープのようなものを貼って仕切り、牛乳瓶に尿を入れて、部屋の隅に秩序正しく並べるような生活ぶりが示されるのである。

4室で土星がムーラトリコーナで強くケンドラに2つの凶星が在住して凶意が強まっており、彼の母親という象意を激しく傷つけているが土星は秩序組織化を表しており、牛乳瓶に尿を入れて秩序立てて並べるような傾向を示している。さらに火星が同室しているので、火星もその傾向を強めるが、異常な形で強めるのである。火星の特徴はやり過ぎる所であり、過剰になってしまうところである。従って、秩序を過剰に求めるところがあって、それが秩序を求める病的な行動へと結びついている。

彼はプレイボーイでも有名で、キャサリン・ヘプバーンやエヴァ・ガードナー、ジーン・ハーロウなどの数々のハリウッド女優やセレブリティと浮名を流し、自らの趣味を兼ねて新人女優を発掘する手腕も高かったようである。

蠍座の月に水星と金星が接合し、対向から木星がアスペクトしており、彼はこうした女優たちとの交友には恵まれていたようである。(ウィキペディアには彼が発掘する女優は皆胸の大きな女優が多かったと書かれているが、月と金星が接合しているのも、母性的な胸の大きい女性を表し、水星が接合しているのも若い女性を表している)

映画の中でハワードヒューズがトランス・ワールド航空 (TWA)の株を過半数買占めて入手し、国際路線を独占するパンナム航空に対して参入を表明するが、それに対向して、パンナム航空側は買収を持ちかけてきたり、それが通じないとすると、政治家を使って第二次世界大戦で軍から航空機の製造を受注して利益を上げていた疑惑で証人喚問を請求したりする場面が描かれている。

ちょうどパンナムの社長から買収を持ちかけられた時に彼は不潔神経症や強迫性障害がかなりの重症であり、議会に出席することが難しい状態だったが、その時、以前、交際していた女優が訪ねてきて、彼が議会に参加できるように彼に入浴をさせ、髭をそり、服を着せて、精神的に支える場面が描かれていた。おそらく彼は減衰する月が金星、水星と接合し、木星からアスペクトされているため、女性が彼を支えているときに精神的に安定するのである。事実に基づいた映画ならば女性によって助けられる事をチャートでも示していることがよく分かる。



## 資本主義の権化

テキサスのヒューストンで、名家出身の母エイリーン・ガノ・ヒューズ (Allene Gano Hughes) とハーバード大学法学部出 (中退) の父、ハワード・ロバード・ヒューズ・シニア (Howard Robard Hughes, Sr. ビッグ・ハワード) の間に生まれる。父のビッグ・ハワードは、弁護士資格は持っていたものの、地道に働くのが性に合わず一攫千金を夢見て鉱物の掘削に取り組む。浮き沈みの激しい生活であったがハワードが3歳のとき、ドリルビットの特許と共にシャープ・ヒューズ・ツール社を設立 (後のヒューズ・ツール社) し、同社が製造したビットは、それまでのものとは桁違いの掘削能力を発揮しヒューズ家に大金をもたらした。

ハワードを溺愛していた父親の不在、父方の遺伝による難聴もあいまって、内向的な性格となる。学業にはほとんど興味を示さず、飛行機・レーシングカー・ハム無線機に魅力を感じる。

1922年、ヒューズが16歳のとき母エイリーンが病死、2年後に父ビッグ・ハワードが急死する。孤児となるが、同時に遺産として871,000ドルと評価されたヒューズ・ツール社の株 (75%) と当時、ほとんどの石油・ガスの掘削機が使用していたドリルビットの特許を手に入れる。

1925年にカリフォルニア州に移り、父から受け継いだ莫大な遺産を元に1927年、かねてからの夢であった映画製作をはじめめる。

ウィキペディアより引用抜粋

ウィキペディアによれば、彼は父親から莫大な遺産を相続して、その資金を元に映画製作をはじめたと書かれている。

遺産相続とか親の資産は2 - 8室の軸で表される。従って、彼のチャートで吉星が集中している牡牛座と蠍座の軸を2 - 8室の軸として設定すると、天秤座ラグナか牡羊座ラグナになるが、彼は航空機の操縦が好きで、アメリカ大陸横断最速記録を樹立しており、誰もしたことのない前人未到の境地を切り開く牡羊座の象意が見られるのである。そのため、牡羊座ラグナではないかと思われる。

1937年には自らの操縦によりニューヨーク - ロサンゼルス間を7時間29分25秒で飛行、当時のアメリカ大陸横断記録を樹立した。1938年にはわずか91時間で世界一周飛行を行い、こちらも当時の最速記録を樹立した。

ウィキペディアより引用抜粋

従って冒頭のチャートでは牡羊座ラグナの最初の度数となるPM 1:15を彼の出生時間に定めている。

すると、彼はマハダシャー金星期の始まりが1924年3月になるのである。

1922年に母エイリーンが死に2年後の1924年に父親のビッグハワードが急死して、この時、父親からの莫大な遺産を相続するのである。ちょうど、マハダシャー金星期への移行期と一致している。

牡羊座ラグナとすると金星は2、7室支配で8室に在住しており、8室は突然の変化、父親の死 (9室から12室) 遺産相続などを表すハウスである。そして、彼はカリフォルニア州に移り住んで映画製作を始めていることから、おそらく華やかな金星の象意が始まったのである。多くのハリウッド女優たちと浮名を流した金星期の到来である。金星はラグナから7室、月から7室の支配星で、まさにビジネスパートナーであるハリウッド女優を表している。その金星に3室支配の水星が接合して、映画製作などを象意を表している。

ハワードを溺愛していた父親の不在、父方の遺伝による難聴もあいまって、内向的な性格となる。学業にはほとんど興味を示さず、飛行機・レーシングカー・ハム無線機に魅力を感じる。

その金星期が始まる前は上記のように内向的な性格で、飛行機、レーシングカー、ハム無線に興味を持っていたというようにほとんど人と関わらずに過ごした傾向が見られるため、おそらくケートゥ期ではないかと思われる。従って、ほぼ牡羊座ラグナで間違いないものと思われる。

例えば彼が作った映画の撮影秘話などを読むと、豪腕で荒々しく全て暴力に関係する映画ばかりである。こうしたことも牡羊座ラグナであることの手がかりとなっている。

#### 地獄の天使

当初はハリウッドの映画界にコネもない上、映画制作の経験もないためその手腕は疑問視されたが、その後、1928年に製作された『暴力団』でアカデミー賞最優秀作品賞候補にノミネートされた他、史上初めて製作費が100万ドルを超えた超大作『地獄の天使/Hell's Angels』（1930年）や、『暗黒街の顔役』（1932年）などのヒット作の制作を手がけるなど、数々の成功を収めた。

第一次世界大戦のパイロット達を描いた作品である『地獄の天使』は、87機の第一次世界大戦当時の戦闘機や爆撃機を購入し実際に飛行させ撮影するなど、当時としては破格の100万ドルを超える製作費をかけた超大作で、公開当時大ヒットしたものの、結局その製作費を回収することは出来なかった。なお、この映画の撮影には2年の年月がかかった上、撮影中の事故で3人のパイロットが死亡している。

ウィキペディアより引用抜粋

それで改めて牡羊座ラグナということでチャートを見ると、9室支配の木星が2室に在住して、両親からの財産に恵まれ、特に父親からの恩恵によって資産を得ることが示されている。2室支配の金星は8室に在住して、木星からのアスペクトを受けており、2室の両親からのお金のハウスの木星からの絡みが2重にあることが示されている。2室や8室に対して9室支配の木星の絡みが生じており、従って、父親の恩恵でお金を得て、遺産相続も出来る配置である。

8室には4室支配の月も在住し、3、6室支配の水星も在住して、土星からのアスペクトを受けており、この8室は吉凶混合している。母親に関する不幸や苦しみや水星が3、6室支配で機能的凶星化して土星からのアスペクトを受けて傷ついていることによって、マインドや判断能力に問題が生じることが示されている。

彼はラグナロードの火星が11室に在住し、10、11室支配の土星と接合しているが、11室は社会的にハイステータスな経営者とか、一流人との社交を表し、それに仕事のハウスが絡んで、彼と同クラスにある資本家や経営者との社交を通じて事業を行い収益を得る配置である。

11室は願望成就のハウスであり、5室の対向にあるため、趣味や娯楽の要素も持っている。彼の娯楽とは“航空機”であり、飛行機の会社や飛行機制作、飛行機の操縦など、全て飛行機に関わるものであった。そして、それらを通じて多くの人々と社交し、自分の願望を成就していったのである。5室の対向にある11室は株式取引や投機の5室の象意も持っており、彼は自分が欲しい会社の株式を買い占めて買収するのが彼の手法であった。

経営危機に陥っていた映画会社のRKO（ラジオ・キース・オヒューム、Radio-Keith-Orpheum）社を買収したり、大手航空会社の「トランス・コンチネンタル・アンド・ウェスタン航空」（T&WA）を買収

したりして、自分の夢である映画製作や航空機事業への参入を実現してきたのである。

彼の5室支配の太陽は9室に在住し、凶星からのアスペクトを一切受けておらず、逆行する木星からのアスペクトを受けていて、強い配置である。おそらく、これは父親との間によりカルマを築いていて、その父親は一攫千金の夢を追う人で、ドリルビットの特許事業で大成功を収めたのである。彼の父親はヒューズのことを溺愛しており、そして、父親の死後は父の遺産で自らの夢を実現したのであるから、彼は父親との前世での良いカルマ的なつながりがあるのである。彼の魂は父親譲りのものであり、射手座に在住する太陽は高い目標に向かって邁進する野心や冒険心を表している。

彼は1947年に世界最大の飛行艇『H-4 ハーキュリーズ』を完成させている。軍向けの輸送機として開発されたが第二次世界大戦が終結して購入契約が破棄されたにも関わらず、ヒューズが莫大な資金を投入して完成させたのである。もはや売上とか金儲けなどを目的とはしていない本当に自分のやりたいこと、人生の目的を追求した結果である。この彼の夢の集大成ともいえる作品がハーキュリーズであり、これをマハダシャー太陽期、そしておそらく太陽/木星期に完成させたのである。それは父親の魂が後押ししていたかのようにあり、人間の自由や創造性や無限の可能性を追求した彼の偉大な業績と評価できるのである。



#### スプルーース・ゲース

H-4 ハーキュリーズその集大成とも言えるのが、H-4 ハーキュリーズ 飛行艇である(ハーキュリーズはギリシア神話の英雄であるヘラクレスの英語読み)。大部分が木製のため、「スプルーース製のガチョウ(スプルーース・ゲース)」とも呼ばれたこの機体は、1947年の完成当時、世界最大の航空機であり、2006年現在までのところ、これよりも大きな翼幅の飛行機は製作されていない(関連: 世界の一覧)。

当初はアメリカ軍向けの輸送機として開発されたものの、第二次世界大戦の終結により購入契約が破棄された。にもかかわらずヒューズが全力を傾けて作り上げたこの巨大な飛行艇は、わずか1機だけが製造され、完成後はヒューズ自らの手でわずか1回飛行しただけで、その後はカリフォルニア州のロングビーチ港に永く展示された。現在はオレゴン州マクミンビルにあるエバーグリーン航空博物館で展示されている。

ウィキペディアより引用抜粋

最後に彼の強迫性障害を生み出した配置を再度確認すると、牡羊座ラグナとすると4室にラーフが在住し、4室支配の月が8室で減衰して、3、6室支配の水星から傷つけられ、11室(6室から6室)支配の土星からアスペクトされて傷ついている。また月から4室には3室支配の土星と6室支配の火星が在住して傷ついている。これらの配置が彼の不潔神経症、強迫性障害の症状を生み出しているのである。

1946年の墜落事故に痛み止めとして使われた麻薬(コデイン)の虜となり、深刻な精神衰弱となった。以前から強迫性障害と思われる行動を繰り返していたが、年を取るにつれて拍車がかかった。極度に細菌を恐れるようになり、トランス・ワールド航空を売却した資金で、1966年にネバダ州のラスベガスにある有名なカジノホテル、デザート・インを買収すると、完全に除菌された最上階のスイートルームから、殆ど外出しなくなる。

強迫性障害により、手を洗い始めるとその動作をやめられなくなるため、一切の入浴や手の洗浄が事実上不可能になったとも言われている。そのため、髪と髭は伸び放題で体は垢にまみれ、耐え難い異臭を放っていたという。

1976年2月10日、ラスベガスからメキシコのアカプルコ・プリンセス・ホテルのスイートルームに本拠を移す。1976年4月5日昏睡状態に陥り、治療のためメキシコからアメリカに戻る際に死亡。71歳であった。190cmあった長身は薬物乱用のため10cm以上縮み、体重はわずか42kg、その容貌(ミイラそのものだった)からはヒューズと判定できず、FBIによる指紋照合が行われた。その亡骸は生まれ故郷テキサス州ヒューストンの墓地に埋葬されている。死因は脳血管障害、心臓病などがあげられている。

ウィキペディアより引用抜粋

彼は1946年の終わり頃に墜落事故に痛み止めとして使われた麻薬の中毒になったようである。

この頃はマハダシャー太陽期の終わり頃だと思われる。そして、1966年に完全に除菌されたカジノホテルの最上階から外出しなくなった頃はマハダシャー火星期である。火星は4室で自室で強い土星と緊密に接合して、制限を加えられており、おそらく家から一步も出ることが出来なくなったのである。

